

久留米市地場企業景況調査レポート(平成23年1月～3月期調査分)

<調査目的>

久留米市内地場企業の景況及び経営動向を把握し、今後の経営改善普及事業に資するとともに、これらの情報の集計結果を事業所へ提供し、経営の参考にしていただくために調査する。

<調査対象>

当所会員事業所を対象とし、建設業・製造業・卸売業・小売業・サービス業それぞれ120社ずつ、計600社を任意抽出して実施。

<調査要領>

四半期ごとに調査用紙を郵送し、前年同月比や来期の予測について回答を求める。調査の集計は日商中小企業景況調査の集計方法に基づいた景気判断指数(DI値)で行う。

<DI値とは>

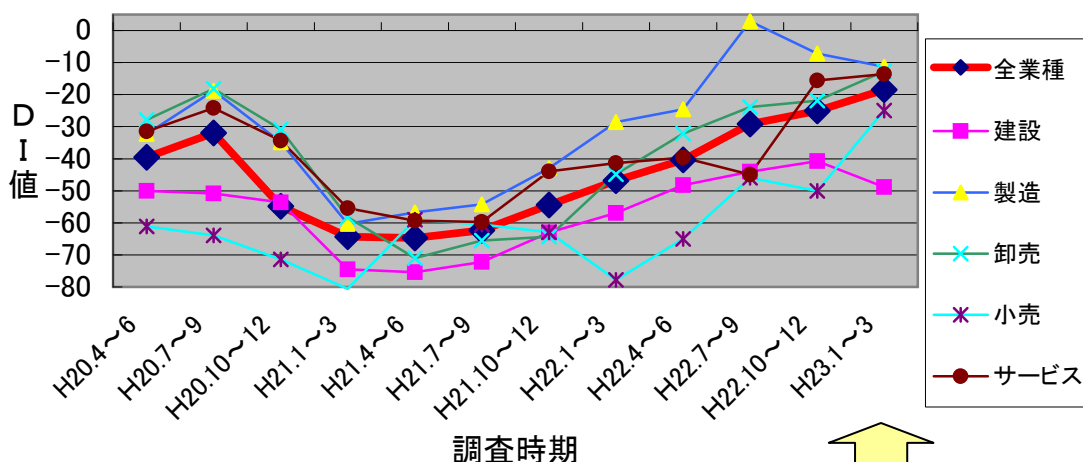
DI(ディーアイ。Diffusion Index: 景気動向指数の略)値は、売上・採算・業況などの各項目についての、ヒアリング対象の判断の状況を表す数値。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答(「増加」や「好転」など)の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答(「減少」や「悪化」など)が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景況感の相対的な広がりを意味する。

※DI=(増加・好転などの回答割合)-(減少・悪化などの回答割合)

<平成23年1月～3月期調査分回収結果>

業種	対象事業所数	回答数	回答率
全業種	600	252	42.0%
建設業	120	44	36.7%
製造業	120	63	52.5%
卸売業	120	63	52.5%
小売業	120	38	31.7%
サービス業	120	44	36.7%

売上DI値推移表



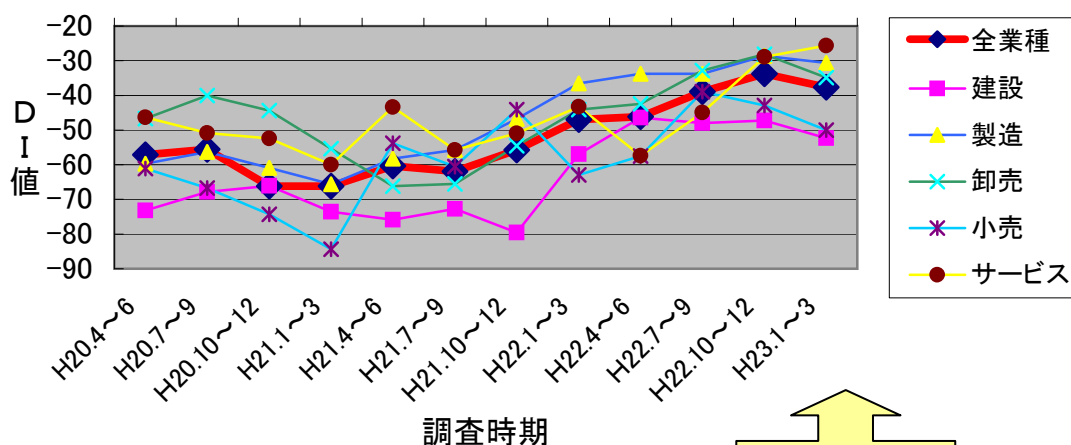
来期(H23. 4~6)の見通し

今期(H23. 1~3)の久留米市地場企業景況調査で「売上面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「増加した」と回答した企業は70社(前期比4社増)、「減少した」と回答した企業は118社(前期比13社減)、「横ばいである」と答えた企業は71社(前期比9社増)であった。DI値を見ると、マイナス幅は七期連続で縮小して▲18.5となり、前期比で6.6P好転した。

業種別に見ると、建設業▲48.8(前期比8.1P悪化)、製造業▲11.3(前期比4.1P悪化)、卸売業▲12.7(前期比9.2P好転)、小売業▲25.0(前期比25.0P好転)、サービス業▲13.6(前期比2.0P好転)となった。

来期(H23. 4~6)の見通しでは全業種DI値は▲37.8と9.7P悪化する見込み。

採算DI値推移表



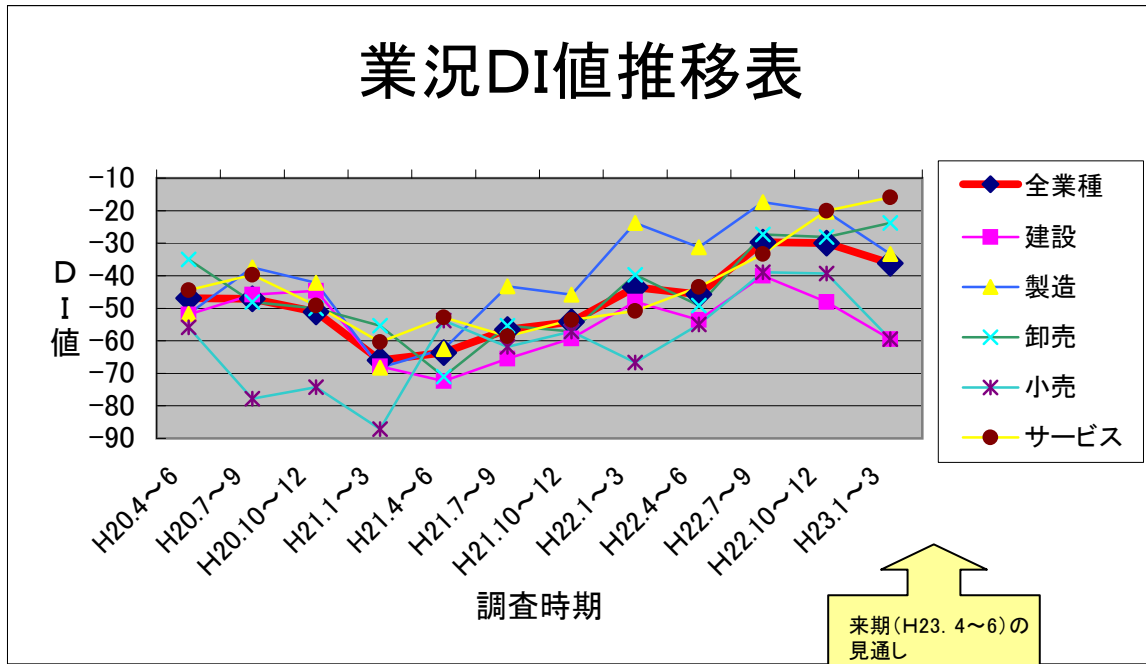
来期(H23. 4~6)の見通し

今期(H23. 1~3)の久留米市地場企業景況調査で「採算面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「好転した」と回答した企業は33社(前期比6社減)、「悪化した」と回答した企業は127社(前期比同数)、「横ばいである」と答えた企業は90社(前期比4社減)であった。DI値を見ると、マイナス幅は拡大して▲37.6となり、前期比で3.8P悪化した。

業種別に見ると、建設業▲52.3(前期比5.1P悪化)、製造業▲30.6(前期比2.0P悪化)、卸売業▲34.9(前期比6.8P悪化)、小売業▲50.0(前期比7.1P悪化)、サービス業▲25.6(前期比3.3P好転)となった。

来期(H23. 4~6)の見通しでは全業種DI値は▲49.6と12.6P悪化する見込み。

業況DI値推移表

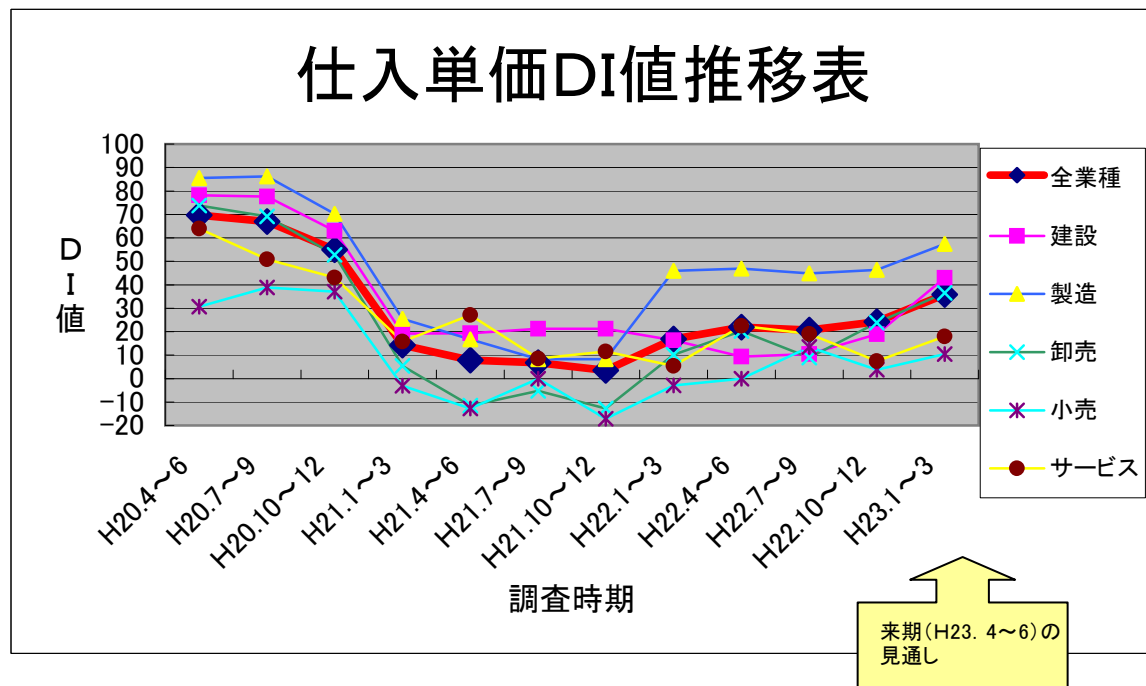


今期(H23. 1~3)の久留米市地場企業景況調査で「業況面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「好転した」と回答した企業は34社(前期比4社減)、「悪化した」と回答した企業は123社(前期比7増)、「横ばいである」と答えた企業は89社(前期比17社減)であった。DI値を見ると、▲36. 2となり、前期比で6. 2P悪化した。

業種別に見ると、建設業▲59. 5(前期比11. 4P悪化)、製造業▲33. 3(前期比13. 0P悪化)、卸売業▲23. 8(前期比4. 3P好転)、小売業▲59. 5(前期比20. 2P悪化)、サービス業▲15. 9(前期比4. 1P好転)となった。

来期(H23. 4~6)の見通しでは全業種DI値は▲49. 8と、17. 8P悪化する見込み。

仕入単価DI値推移表

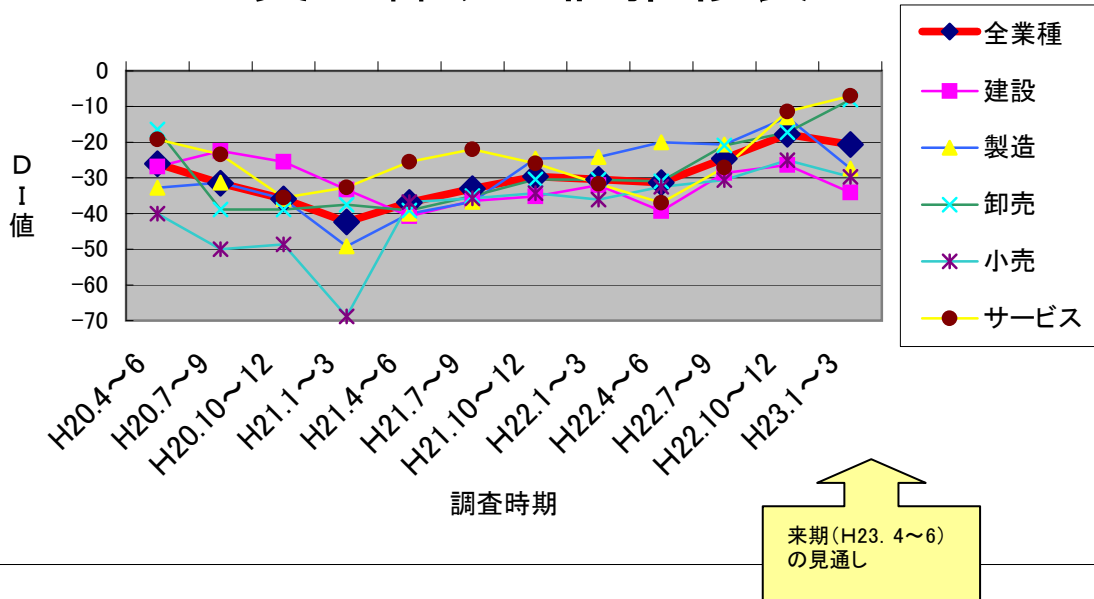


今期(H23. 1~3)の久留米市地場企業景況調査で「仕入単価面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「上昇した」と回答した企業は81社(前期比30社増)、「低下した」と回答した企業は24社(前期比4増)、「横ばいである」と答えた企業は108社(前期比43社減)であった。DI値を見ると、35. 8となり、前期比で11. 6P悪化した。

業種別に見ると、建設業42. 9(前期比24. 0P悪化)、製造業57. 4(前期比11. 0P悪化)、卸売業36. 5(前期比12. 7P悪化)、小売業10. 5(前期比6. 8P悪化)、サービス業17. 9(前期比10. 4P悪化)となった。

来期(H23. 4~6)の見通しでは全業種DI値は45. 0と、21. 1P悪化する見込み。

資金繰りDI値推移表

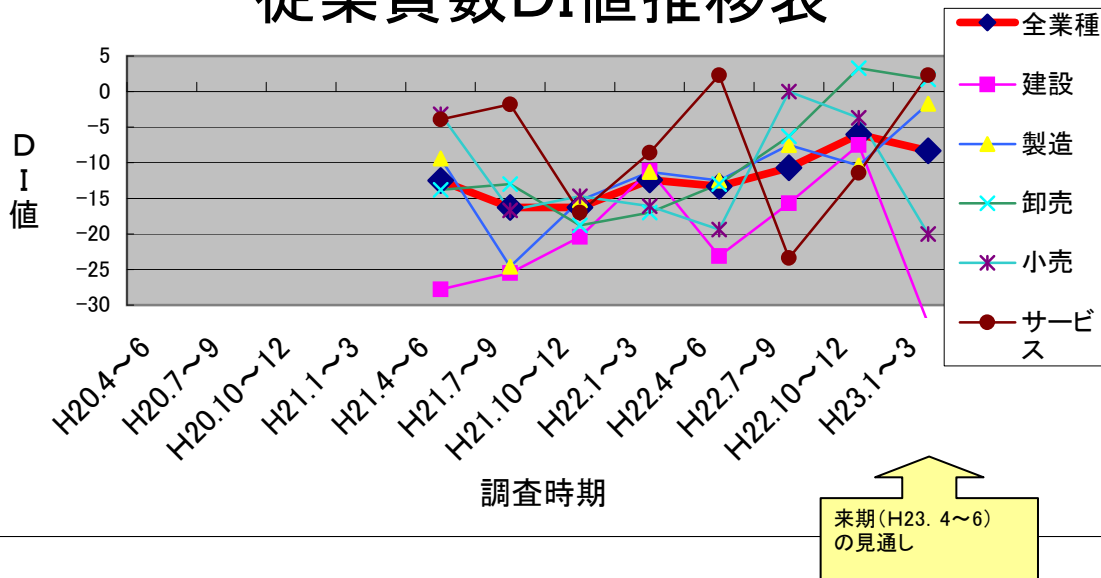


今期(H23. 1~3)の久留米市地場企業景況調査で「資金繰り面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「好転した」と回答した企業は22社(前年比1社減)、「悪化した」と回答した企業は73社(前期比4社増)、「横ばいである」と答えた企業は153社(前期比13社減)であった。DI値を見ると▲20.6となり、前期比で2.8P好転した。

業種別に見ると、建設業▲34.1(前期比7.7P悪化)、製造業▲27.4(前期比14.4P悪化)、卸売業▲8.1(前期比9.1P好転)、小売業▲29.7(前期比4.7P悪化)、サービス業▲7.0(前期比4.4P好転)となった。

来期(H23. 4~6)の見通しでは全業種DI値は▲20.3と、7.6P悪化する見込み。

従業員数DI値推移表

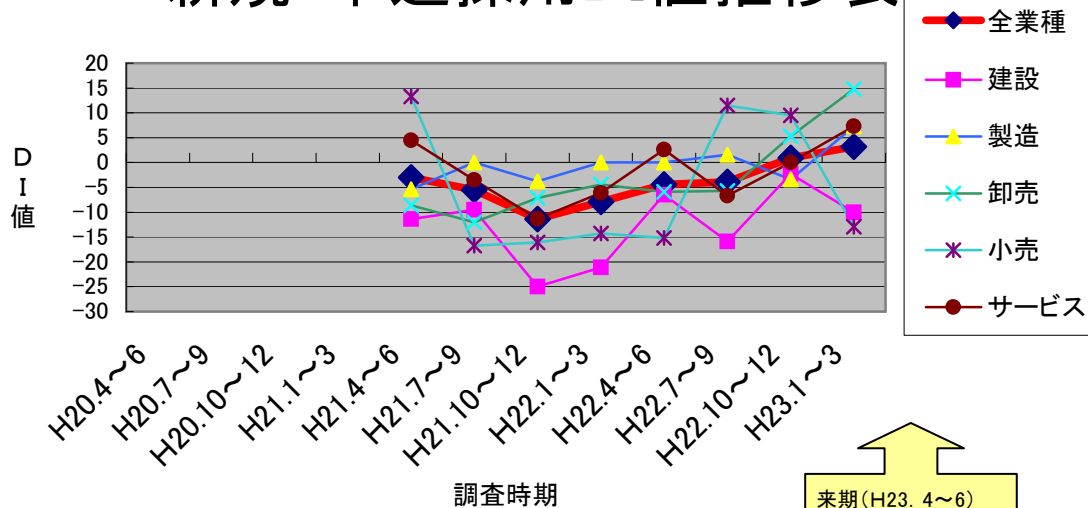


今期(H23. 1~3)の久留米市地場企業景況調査で「従業員数面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「増加した」と回答した企業は33社、「減少した」と回答した企業は53社、「横ばいである」と答えた企業は155社であった。DI値は▲8.3となった。

業種別に見ると、建設業▲32.6、製造業▲1.7、卸売業1.7、小売業▲20.0、サービス業2.3となった。

来期(H23. 4~6)の見通しでは、全業種DI値は▲2.1となる見込み。業種別に見ると、建設業▲11.6、製造業▲3.3、卸売業3.4、小売業▲5.7、サービス業4.5となる見込み。

新規・中途採用DI値推移表

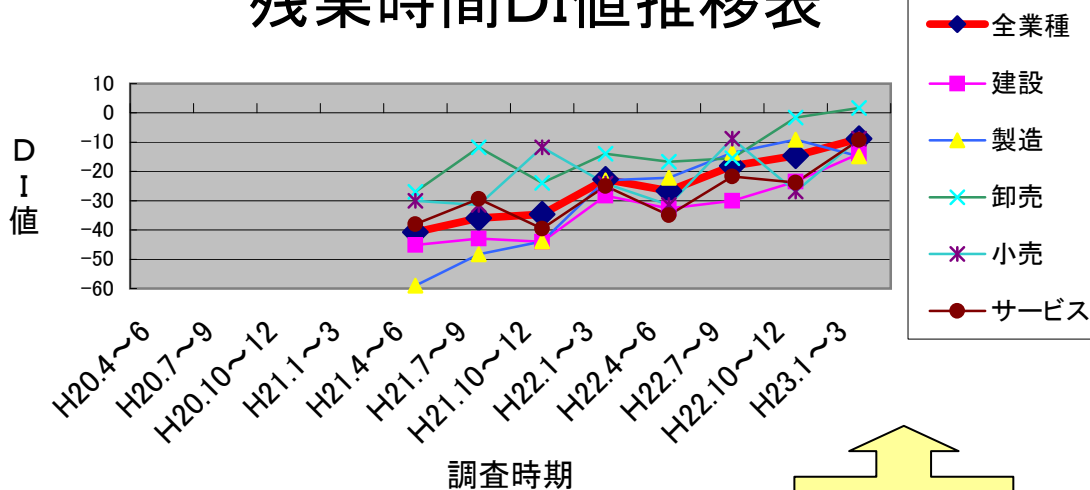


今期(H23. 1~3)の久留米市地場企業景況調査で「新規・中途採用面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「増加した」と回答した企業は33社、「減少した」と回答した企業は26社、「横ばいである」と答えた企業は162社であった。DI値は、3.2となった。

業種別に見ると、建設業▲10.0、製造業7.3、卸売業14.8、小売業▲12.9、サービス業7.3となった。

来期(H23. 4~6)の見通しでは、全業種DI値は1.4となる見込み。業種別に見ると、建設業▲5.0、製造業0、卸売業3.7、小売業▲3.2、サービス業10.0となる見込み。

残業時間DI値推移表

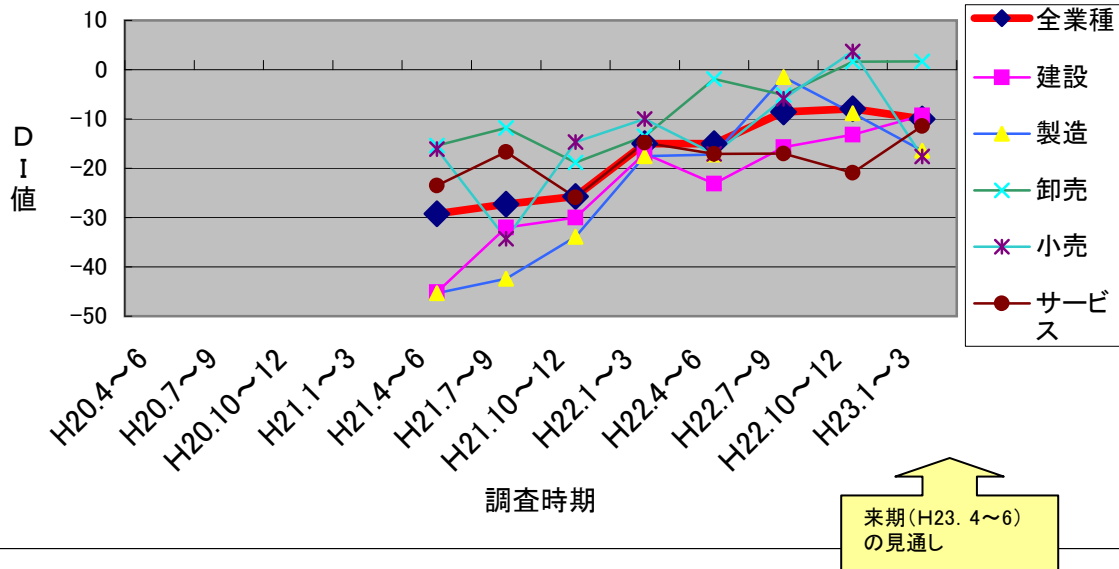


今期(H23. 1~3)の久留米市地場企業景況調査で「残業時間面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「増加した」と回答した企業は34社、「減少した」と回答した企業は55社、「横ばいである」と答えた企業は151社であった。DI値は▲8.8となった。

業種別に見ると、建設業▲14.0、製造業▲14.8、卸売業1.7、小売業▲8.8、サービス業▲9.3となった。

来期(H23. 4~6)の見通しでは、全業種DI値は▲17.6となる見込み。業種別に見ると、建設業▲26.2、製造業▲15.0、卸売業▲15.3、小売業▲20.6、サービス業▲14.0となる見込み。

労働時間・日数DI値推移表

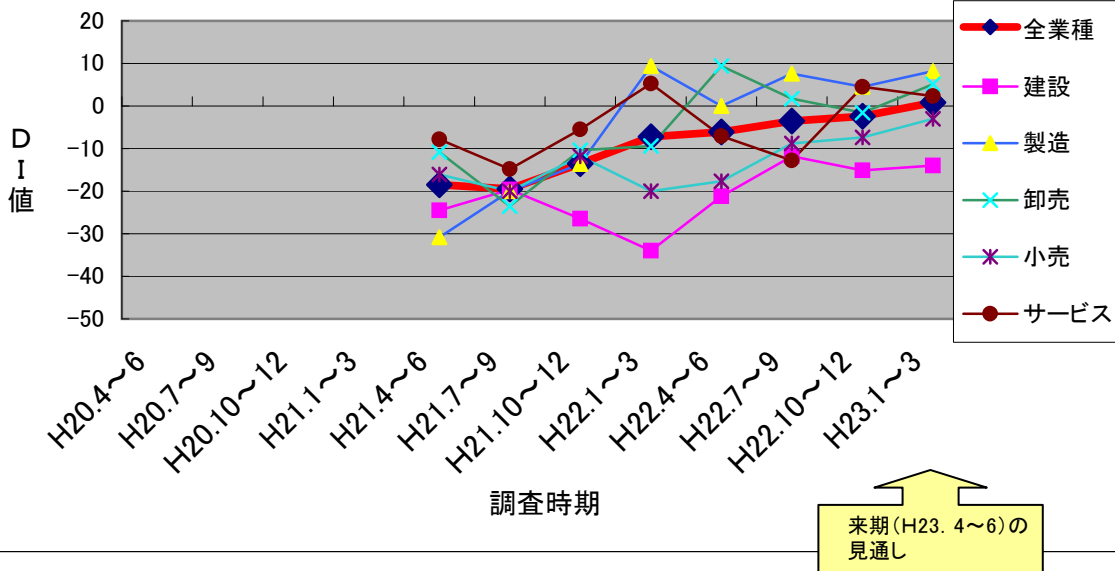


今期(H23. 1~3)の久留米市地場企業景況調査で「労働時間・日数面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「増加した」と回答した企業は19社、「減少した」と回答した企業は43社、「横ばいである」と答えた企業は179社であった。DI値は▲10.0となった。

業種別に見ると、建設業▲9.3、製造業▲16.4、卸売業1.7、小売業▲17.6、サービス業▲11.4となった。

来期(H23. 4~6)の見通しでは、全業種DI値は▲16.7となる見込み。業種別に見ると、建設業▲23.8、製造業▲18.0、卸売業▲10.2、小売業▲20.6、サービス業▲13.6となる見込み。

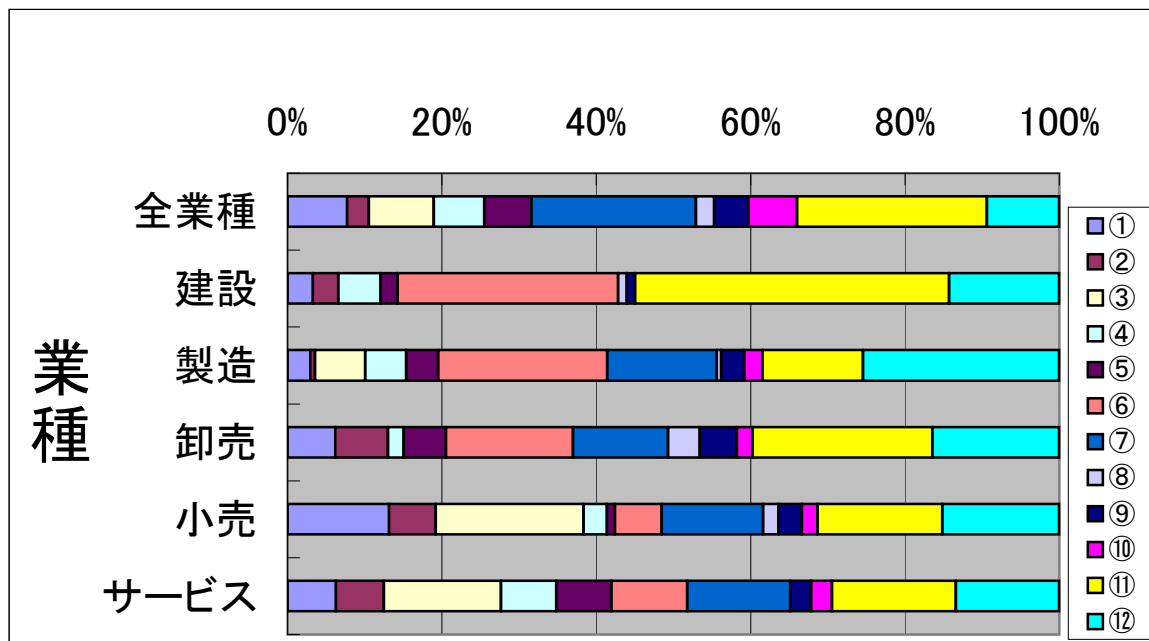
賃金DI値推移表



今期(H23. 1~3)の久留米市地場企業景況調査で「賃金面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「増加した」と回答した企業は39社、「減少した」と回答した企業は37社、「横ばいである」と答えた企業は164社であった。DI値は0.8となった。

業種別のDI値では、建設業▲14.0、製造業8.2、卸売業5.1、小売業▲3.0、サービス業2.3となった。

来期(H23. 4~6)の見通しでは、全業種DI値は▲0.8となる見込み。業種別に見ると、建設業▲21.4、製造業14.5、卸売業6.8、小売業▲9.1、サービス業2.3となる見込み。



①大企業の進出による競争の激化 ②同業者の進出 ③消費者ニーズへの対応 ④人件費の増加 ⑤人件費以外の経費の増加 ⑥仕入単価の上昇 ⑦販売価格の低下 ⑧金利負担の増加 ⑨事業資金の借入難 ⑩従業員の確保難 ⑪需要の停滞 ⑫その他
 今期(H22. 4~6)の経営上の悩みとしては、「需要の停滞(24. 9%)」「販売価格の低下・上昇難(20. 0%)」を指摘する声が多く寄せられている。
 特に、「需要の停滞」は建設業(46. 8%)、製造業(25. 0%)、卸売業(35. 6%)、小売業(16. 3%)サービス業(24. 0%)と全業種で意見が集中した。

<事業所から寄せられた主なコメント>

【建設業】

受注工事の請負金額の低下が止まらず、仕事を請けても利益が出ない
 東日本大震災の影響で材料単価の上昇と仕入れが困難になった
 東日本大震災の影響で資材等の仕入れが困難な為、受注した工事の遅れや、停止が発生している

【製造業】

商品単価の下落と倒産等による販売先の減少
 デフレ経済の中で製品単価を上げることが困難
 東日本大震災の影響で銅管、アルミ等の原材料が入手難

【卸売業】

穀物相場の高騰で仕入れ商品の値上がりが続いている
 仕入先企業の被災で商品供給が不可能となっており、品薄状態になっている
 販売得意先が被災したので、売上が下がった

【小売業】

お客様の高齢化により来店頻度が低下している
 店舗、備品の老朽化で修理代が増えた
 東日本大震災の影響で商品が入手難になり売上が減少した

【サービス業】

来店頻度を上げるため、ポイント制を導入しているが効果が出ていない
 資金繰りが厳しいので設備投資もできない
 東日本大震災の影響で宴会、宿泊予約のキャンセルが多数発生した